

授業概要

社会と言語とは、実際には切っても切り離せない関係がある。もし人の集まりである社会というものがなく、一人で生きているならば、言葉は不要となるかもしれない。社会と言語はどのような関係があるのか。社会と言語との関係について考えるきっかけになるよう、社会言語学の基本的な考え方を講義する。

授業計画

第1回	言語学と社会言語学
第2回	方言について
第3回	職業と言葉
第4回	言葉の世代差
第5回	言葉と性
第6回	言語共同体
第7回	言語変化はどのように起こるのか
第8回	ピジンとクレオール
第9回	「あなた」と「きみ」
第10回	タブーと言い換え
第11回	会話と文脈
第12回	行動と会話
第13回	言語と文化
第14回	日本語の特色を考える
第15回	授業のまとめと期末試験について
第16回	筆記試験

到達目標

社会言語学の基本的な考え方を一通りマスターする。それによって、自分が使っている言葉と社会の関係について、考えることができるようになる。

履修上の注意

講義形式ではあるが、言葉に対する「気づき」を大切にしたいので、積極的に臨んでもらいたい。日本語話者であれば、特に前提となる知識は必要としない。

予習復習

授業の最後に、次回の授業の内容に関係した課題を提示し、出欠確認用紙に記入してもらう予定である。必須ではないが、そこに書かれた内容を授業に反映することもあるので、積極的に記入すると同時に、次の授業まで、日常生活の中でそのことに対して意識を持っておいてもらいたい。

評価方法

期末試験（100%）によって成績をつける。期末試験は、授業で学んだ知識を確認する問題とともに、言葉と社会の関係について、授業を通して発見したこと、あるいは疑問に思ったことなどを自由に書いてもらう設問を含む予定である。

テキスト

プリントを作成して配布する。